

米国における知的財産分野での生成 AI の戦略的統合：応用、法的枠組み、および企業に求められる要件に関する包括的分析

Gemini

エグゼクティブサマリー

本レポートは、米国企業における知的財産（IP）分野での生成 AI の活用に関する包括的な分析を提供する。生成 AI は、単なる漸進的な効率化ツールではなく、米国の IP 法の人間中心の基盤を根本から揺るがすパラダイムシフトをもたらす技術である。本分析の中心には「二重の IP 危機」という概念がある。これは、AI 支援による創造物に対する権利確保の困難性と、AI のトレーニングおよび生成物から生じる著作権侵害リスクへの対処という、2 つの課題が同時に発生している状況を指す。

主要な調査結果として、まず、米国特許商標庁（USPTO）および米国著作権局が、IP 保護の適格性を判断する上で「人間による重要な貢献」を一貫して要求している点が挙げられる。これにより、企業は AI をイノベーションに活用する際、人間の創造的関与を明確に文書化するという新たな立証責任を負うことになった。特に特許分野では、発明の概念形成におけるプロンプトエンジニアリングの役割が、発明者適格性を左右する重要な要素として浮上している。

次に、企業における AI 導入戦略は、セキュリティ上の懸念から二極化している。機密性の低い業務にはパブリックな AI ツールが許容される一方、企業の IP や営業秘密に関わる作業には、データが外部のモデル学習に利用されない、セキュアなプライベート環境やオンプレミス環境の利用が不可欠となっている。このセキュリティ要件は、AI プラットフォームの選定における最重要基準となりつつある。

最後に、本レポートは、この進化する法的環境を乗り切るために、米国企業には堅牢な社内 AI ガバナンスポリシーの策定が戦略的に不可欠であると結論付ける。これには、AI の利用に関する明確なガイドラインの策定、全従業員への IP リスクに関する教育、そして AI 生成コンテンツに対する厳格な人間によるレビュープロセスの導入が含まれる。AI の効率性と人間の戦略的判断を組み合わせたハイブリッドアプローチこそが、今後の IP 管理における競争優位の源泉と

なるであろう。

第1章 新たなパラダイム：生成 AI が従来の知的財産法にもたらす挑戦

本章では、生成 AI がもたらす根源的な法的・概念的対立を解き明かし、後続の章で詳述する分析の基礎を構築する。

1.1 人間中心の IP の解体：AI はいかにして著作者性および発明者性の境界を曖昧にするか

米国の知的財産法の根底には、*人間の*創意工夫を保護し、奨励するという基本的前提が存在する¹。1976 年米国著作権法や米国特許法などの法律は、人間の著作者または発明者の存在を前提として設計されている¹。

生成 AI は、人間と機械による創造の境界線を曖昧にすることで、この枠組みに直接的な挑戦を突きつけている。これにより、誰が、あるいは何が、法的な創造主として認められるべきかという根源的な問いが生じ、法的なグレーゾーンが生まれている¹。この対立を象徴する事例として、米国著作権局が一貫して AI 単独で作成された作品の登録を拒否していることや、発明者の定義を国際的に問うた画期的な DABUS 特許事件が挙げられる¹。

1.2 未解決の法的状況：AI 生成物の所有権

AI が生成したコンテンツの所有権は、依然として重大かつ未解決の問題である。その所有権は、プロンプトを提供したユーザーに帰属するのか、AI モデルの開発者に帰属するのか、あるいは誰にも帰属せずパブリックドメインとなるのか、明確な答えは出ていない¹。

この問題の根源は、現行法が人間以外の創造主を想定していないために生じる法的な空白にある。裁判所や政策立案者は、権利の配分方法について苦慮しているのが現状である¹。この問題に対する潜在的な法的回避策として、著作権適格性のための「人間によるインプットの閾値」の設定や、ユーザーと AI 開発者間の共同著作権モデルの承認などが議論されている¹。しかし、これらは現時点では法的な先例のない理論的な構成概念に過ぎないことを強調しておく必

要がある¹。

1.3 著作権侵害の最前線：AI のトレーニングと生成物に関する責任リスクの分析

新たな IP の創出から既存 IP の侵害へと視点を移すと、生成 AI モデルが抱える別の深刻な問題が浮かび上がる。これらのモデルは、インターネットから収集された膨大なデータセットでトレーニングされており、そのデータには著作権で保護された作品、特許技術、商標登録された素材が必然的に含まれている⁴。

この状況を受け、作家、芸術家、メディア企業、レコードレーベルなどの権利所有者が、OpenAI、Anthropic、Uncharted Labs といった AI 開発企業を相手取り、大規模な訴訟を次々と提起している⁵。これらの訴訟は、AI のトレーニングにおける著作権法および「フェアユース」の原則の適用限界を問うものであり、その判決は業界の将来を大きく左右する⁶。

さらに、AI の生成物がトレーニングデータ内の保護された作品と実質的に類似したコンテンツを生成することにより、既存の IP を直接侵害するリスクも存在する⁴。例えば、*Alcon Entertainment* 対 *Tesla* の訴訟では、AI が著作権を侵害する販促用画像を生成するために使用されたと申し立てられている⁸。

これらの法的課題は、米国企業が直面する「二重の IP 危機」を形成している。これは単一の問題ではなく、二つの側面から企業を圧迫する状況である。一つは、AI 支援による創造物に対する IP 権の確保と所有が困難であるという攻めの危機である。米国の法律は人間の発明者と著作者を要求するため、純粋な AI 生成物や AI 主導の創造物を保護することが難しい¹。これにより、企業は AI 主導のイノベーションを核とした防御可能な IP ポートフォリオを構築する能力が制限される。

もう一つは、AI のトレーニングプロセスと生成物の両方から生じる大規模な著作権侵害責任にさらされるという守りの危機である。同意なく作品をトレーニングに使用されたクリエイターからの訴訟が急増しており、これは AI 開発者と AI ツールを使用する企業双方にとって、潜在的に存続を脅かすほどの財政的・法的リスクを生み出している⁴。

これら二つの危機は独立した問題ではない。イノベーションのために AI を活用しようとする攻めの戦略が、同時に著作権侵害の申し立てに対する守りの脆弱性を高めるという、密接に関連した構造になっている。新しい資産を追求する行為が、直接的に法的責任のリスクを増大させるというこの力学は、これまでにないものであり、現代の企業 AI 戦略の中心的な課題となっている。

第2章 AI 支援発明の時代における米国特許法の航海

本章では、生成 AI が米国の特許法に与える具体的な影響を深く掘り下げる。特に、発明者適格性という極めて重要な問題と、米国特許商標庁（USPTO）が公表した公式ガイダンスに焦点を当てる。

2.1 人間であることの要請： *Thaler v. Vidal* 事件の判例分析

米国における AI の発明者適格性に関する法的な基準を確立したのは、2022 年の連邦巡回控訴裁判所による *Thaler v. Vidal* 事件の判決である。この判決は、現行の米国法の下では「発明者」は「自然人」でなければならないと明確に判示した³。

最高裁判所が上告を受理しなかったため、この判決は確定し、米国特許出願において AI システムを発明者として記載する道は事実上閉ざされた³。この判例により、法的な論点は「AI は発明者になり得るか」という問いから、「AI が発明を支援した場合、人間はどの程度の関与をすれば発明者として認められるのか」という、より実践的な問いへと移行した¹⁴。

2.2 詳細分析：USPTO の「AI 支援発明に関する発明者適格性ガイダンス」

本項では、特許分野における最重要文書である、2024 年 2 月に USPTO が公表したガイダンスを徹底的に分析する。このガイダンスは、*Thaler* 判決および AI に関するホワイトハウスの大統領令に直接応える形で策定されたものである¹⁹。

ガイダンスが示す中心的な見解は、AI 支援発明は、一人または複数の自然人が「発明に著しく貢献した」場合に限り、特許性がないと一律に判断されるものではない、という点である¹⁴。

2.2.1 「人間による重要な貢献」の定義： *Pannu* ファクターの適用

ガイダンスは、人間による貢献が「重要」であるか否かを判断するにあたり、審査官に対して既存の *Pannu* ファクターを AI の文脈で適用するよう指示している¹⁴。

2.2.2.5 つの指導原則の実践

USPTO は、*Pannu* ファクターを AI の状況に適応させるため、以下の 5 つの主要な指導原則を提示した¹⁵。

1. AI の使用は、人間の発明者適格性を否定するものではない。
2. 単に AI に問題を提示するだけでは不十分である。しかし、特定の解決策を導き出すような、具体的で的を絞ったプロンプトを作成することは、重要な貢献と見なされ得る。
3. AI の出力を単に実施（**reduction to practice**）するだけでは不十分であるが、その出力を大幅に修正したり、それに基づいて実験を行ったりすることは、発明者適格性を満たす可能性がある。
4. 特定の問題を解決するために特化した AI システムを設計、構築、またはトレーニングすることは、重要な貢献となり得る。
5. AI システムを単に所有または監督すること（「知的支配」）だけでは、発明者とは認められない。

このガイダンスは、発明者適格性の判断の焦点を、発明という行為そのものから、その行為に至るまでのプロセス、特にプロンプトの作成へと移行させた。これは、企業にとって新たな立証責任を生み出すものである。ガイダンスは「一般的なプロンプト」では不十分だが、「特定の解決策」を導き出す「具体的なプロンプト」は発明への貢献になり得ると明記している¹⁵。これにより、「プロンプトエンジニアリング」という行為が、特許性のある発明行為となり得る可能性が示された。発明の才は、最終的な成果物を考案することだけでなく、その成果物を導き出す¹⁶を考案することにも見出されるようになったのである。

しかし、これは一つのパラドックスを生む。AI が高度化すればするほど、人間のプロンプトはより抽象的かつ高レベルになる可能性がある。企業は、一連のプロンプトが単なる試行錯誤ではなく、「重要な貢献」であったことをどのように証明すればよいのか。この問いに対する答えは、研究開発部門が新たな厳格な文書化プロトコルを導入する必要性を示唆している。最終結果だけでなく、プロンプトの設計、改良、そしてそれに対する AI の応答という、人間と AI の相互作用の全プロセスを記録することが、USPTO に対して「人間による重要な貢献」を証明するための中心的な証拠となる。これにより、社内の研究開発記録のあり方が根本的に変わることになるだろう。

2.3 実務家の責任：USPTO 規則の遵守

本項では、USPTO が後続のガイダンスで概説した、AI ツールを使用する特許専門家が負うべき実践的かつ倫理的な義務に焦点を当てる²⁰。

第一に、**誠実かつ善意の義務**があり、AI の使用が特許性に影響を与える重要な情報である場合には、それを開示する義務が含まれる²⁰。

第二に、**署名要件および相当な調査の義務**が挙げられる。これは、提出書類には人間が自ら署名しなければならず、その内容の正確性に責任を負うことを意味する。AI の「ハルシネーション（幻覚）」や架空のデータに対する警告も含まれており、AI の出力に単に依存することは「相当な調査」とは見なされない²⁰。

第三に、**機密保持**の重要性が強調される。機密性の高いクライアント情報や営業秘密を第三者の AI プラットフォームに入力することに伴うリスクは極めて大きい⁷。

第 3 章 特許実務の革命：AI ツールエコシステム

本章では、法的理論から実践的な応用へと移行し、特許ライフサイクル全体を支援するために設計された、急成長中の専門的な生成 AI ツール市場を検証する。

3.1 構想から出願まで：研究開発および先行技術調査における AI の役割

AI は、イノベーションの最も初期の段階で活用され始めている。これには、新しいアイデアや改良点を提案することによる研究開発の支援³⁰や、発明開示書の作成と記録の補助が含まれる³⁰。

特に重要かつ時間のかかる作業である先行技術調査において、AI は効率性と網羅性を大幅に向上させている。AI ツールは、グローバルなデータベースをスキャンし、調査結果を要約し、重要な参考文献をハイライト表示し、さらにはイノベーションの余地がある「ホワイトスペース」を特定することさえ可能である²⁹。

3.2 AI 搭載特許ドラフター：効率と品質の向上

特許出願書類の作成という中核業務において、AI は革命的な変化をもたらしている。AI ツールは、発明開示書に基づき、請求項（独立項および従属項）、背景技術、明細書、要約書といった出願書類の全部門の初稿を生成することができる³⁰。

その利点は多岐にわたる。時間とコストの大幅な削減²⁹、専門用語の一貫性の向上、そして代替的な請求項構成の検討が可能になることなどが挙げられる²⁹。

しかし、人間の監督が不可欠である点は繰り返し強調されなければならない。AI はあくまで出発点を提供するものであり、戦略的なレビュー、請求項の文言の洗練、そして法的な正確性の確保のためには、熟練した特許弁理士が不可欠である²⁹。特に、AI の「ハルシネーション」が出願書類に事実誤認を生じさせるリスクは重大であり、人間による慎重なレビューが求められる²⁹。

3.3 審査手続きの効率化：オフィスアクション応答への AI 活用

出願後の審査手続き段階においても、AI の活用が進んでいる。USPTO のオフィスアクションを分析し、拒絶理由を特定し、応答のための初歩的な主張や請求項の補正案を作成するツールが登場している²⁹。

一部のツールは、出願内容や先行技術に基づいて、予想されるオフィスアクションを予測することさえ可能であり、拒絶リスクを軽減するための事前の対策を講じることができる²⁹。

3.4 主要 AI 特許プラットフォームの比較分析

本項では、企業意思決定者にとって実用的な、主要な AI 特許ツールベンダーの比較分析を提供する。以下の表は、各プラットフォームの能力を構造的に評価するために作成された。企業が技術導入に関する情報に基づいた意思決定を行うためには、単なるツールのリストアップでは不十分である。機能、管轄区域、セキュリティ、既存ワークフローとの統合性といった、多国籍企業にとって重要な基準に基づいた構造的な比較が必要となる。この表は、複雑な製品情報を、意思決定を支援する明確な形式に集約するものである。

表 3.1：主要 AI 特許作成・審査プラットフォームの比較分析

プラットフォーム	主要機能	対応管轄	セキュリティ・機密保持 プロトコル	主な差別化要因・統合
Solve Intelligence ³⁵	完全な出願作成、図面生成、オフィスアクション応答作成、発明開示書生成	USPTO, EPO, PCT	最高水準のセキュリティ基準に準拠	管轄・技術分野・ユーザーに特化したカスタマイズ
DeepIP ³⁴	完全な出願作成、図面生成、オフィスアクション応答作成、品質レビュー	USPTO, EPO, PCT	SOC 2, GDPR, ISO27001 準拠、ゼロデータ保持ポリシー	Microsoft Word とのネイティブ統合、企業の執筆スタイル学習
Edge ³⁵	出願作成（請求項、明細書）、図面作成・編集、発明開示書取り込み	USPTO, EPO	SOC 2 Type II 認証、GDPR 準拠、ユーザーデータでのトレーニングなし	発明開示の取り込みと解析に特化、データレジデンシーオプション
Patent Bots ³⁵	書類レビュー・分析、審査官・アートユニット統計分析	USPTO	-	審査段階での分析ツールと USPTO との統合に強み
ClaimMaster ³⁵	出願書類のレビュー、定型文の自動挿入、一貫性チ	USPTO	-	出願前の最終チェックとレビュー機能に特化

	エック			
Polsinelli PatentCAD ³⁷	請求項に基づく視覚的な明細書作成、定型業務の自動化	USPTO	-	法律事務所による自社開発、請求項から明細書を視覚的に構築
IP Author ³²	先行技術調査との統合、出願書類の全要素の初稿生成	-	-	先行技術調査機能とのシームレスな統合
Rowan Patents ³²	出願作成プロセス全体を通じた対話的な支援、図面管理	-	-	対話的で編集プロセス全体をサポート

これらのデータは、AI が特許専門家を代替するのではなく、むしろその能力を増強し、新たな効率的な法務実務モデルを生み出していることを示唆している。最も競争力のある専門家は、「人間+AI」のハイブリッドアプローチを習得した者となるだろう。AI は、時間のかかる定型業務を自動化し、弁理士が請求項戦略やクライアントへの助言といった、より価値の高い戦略的業務に集中する時間を確保することを可能にする²⁹。例えば、ある AI ツールで初稿を作成し、別のツールで改良を加え、その全プロセスを人間の専門家が指導するというハイブリッドなワークフローが現実のものとなっている³²。一方で、ニュアンスの欠如、ハルシネーション、セキュリティ上の懸念といった AI のリスクは、人間の監督、判断、倫理的責任が依然として不可欠であることを裏付けている²⁹。この「サイボーグ弁理士」とも呼べるモデルは、AI を速度とデータ処理能力のために活用しつつ、戦略的思考、法的解釈、倫理的判断といった人間固有のスキルを適用することで、特許法務における生産性と価値を再定義する。

第 4 章 ブランドの創造と保護：商標管理における生成 AI

本章では、生成 AI が商標に与える二つの側面、すなわちブランド資産を創造するツールとして

の役割と、それらを管理・保護する技術としての役割を検証する。

4.1 創造的パートナーとしての AI：ブランド資産の生成

生成 AI は、製品名、広告スローガン、ロゴ、さらにはオーディオジングルといった、新たなブランディング要素の候補を生成するために利用されている³。

特許法や著作権法とは異なり、米国の商標法には「人間による創作」という要件は存在しない。商標の機能は、商品の出所を識別し、消費者の混同を防ぐことであり、創造性に報いることではない。したがって、AI を用いて商標を作成することに本質的な制約はない¹²。

4.2 デューデリジェンスの強化：AI による商標クリアランス調査

AI が商標実務において最も大きな影響を与えているのは、クリアランス調査の効率化である³³。AI ツールは、登録済みおよび出願中の商標に関する膨大なデータベースを迅速にスキャンすることができる⁴¹。

これらのツールは、単語商標（音、外観、意味の類似性）やロゴ（画像認識）の類似性を分析する高度な能力を備えている³³。

しかし、その限界も明確に認識する必要がある。現在の AI アルゴリズムは、「商取引における使用」の判断、文化的文脈の理解、あるいは不快感を与える可能性のある商標の識別といった、商標法に不可欠なニュアンスに富んだ法的分析に苦戦している⁴¹。この「ニュアンスのギャップ」により、人間の専門知識が依然として不可欠となっている。

4.3 自動化されたエンフォースメント：監視および検知のための AI

AI は、継続的なブランド保護活動においても活用されている。AI 搭載ツールは、オンラインマーケットプレイス、法的申請書類、その他の情報源を監視し、潜在的な商標の不正使用や侵害を検知することができる³³。これにより、より迅速かつ大規模な権利行使活動が可能になる

³³。

4.4 AI 搭載商標管理プラットフォームの概要

特許の章と同様に、本項では AI 商標ツール分野の主要ベンダーの戦略的概要を、比較表を用いて提供する。企業の法務部門は、初期のスクリーニングから継続的な監視、権利行使に至るまで、商標管理のライフサイクル全体をカバーするツールを必要としている。この表は、各プラットフォームの強みと焦点を明確にし、企業のニーズに最適なソリューションの選定を支援するものである。

表 4.1 : AI 搭載商標調査・管理ツールの概要

プラットフォーム	中核機能	主な AI 搭載機能	データソース	対象ユーザー/ 価格モデル
TrademarkNow (Corsearch) ⁴²	クリアランス調査、ポートフォリオ分析、商標ウォッチ、ブランド保護	画像認識検索、音声類似性分析、名称生成、ポートフォリオ分析	グローバル商標、企業名、ドメイン名、意匠データベース	企業向けソリューション、法律事務所
Trademarkia.ai ⁴³	クリアランス調査、登録可能性予測、類似性レポート	登録可能性予測、AI による類似性比較レポート生成	USPTO	個人・中小企業向け、月額 \$29 のサブスクリプション
Huski.ai ⁴⁴	クリアランス調査、ドッキング、商標ウォッチ、ブランド保護	画像認識検索、e コマース監視、ビッグデータに基づく弁護士プロフィール	USPTO、e コマースリスティング、訴訟データ	法律事務所、月額 \$299 からのサブスクリプション
WIPO AI	分類支援、画	ウィーン分類	WIPO が管理	IP 庁、出願

Tools ⁴⁵	像類似性検索、機械翻訳	支援、画像類似性検索（グローバルブランドデータベース）	するグローバルデータベース	人、一般ユーザー
---------------------	-------------	-----------------------------	---------------	----------

AI は類似性の定量的分析には優れているが、商標法の中心となる定性的かつ文脈依存の法的分析には対応できていない。AI は、膨大なデータベースをスキャンして音声的・視覚的な類似性を検出する規模の大きなタスクを得意とする ⁴²。しかし、AI アルゴリズムは、「商取引における使用」や、ある商標を不快または不適切にする可能性のある「文化的文脈」といった、中核的な法的概念を理解することができない ⁴¹。これは定量的な分析ではなく、定性的な分析である。

この乖離は「ニュアンスのギャップ」を生み出す。AI ツールは、既存の登録商標とは技術的に異なっても、特定のサブカルチャーにおける意味合いや、他者による名目的な非商業的使用のために問題となる可能性のある商標に、ゴーサインを出してしまうかもしれない。このことは、経験豊富な商標弁護士を純粋な AI 駆動型クリアランスツールに置き換える企業が、単にコストを削減しているだけでなく、知らず知らずのうちに高いレベルのリスクを受け入れていることを意味する。この分野における人間の弁護士の真の価値は、AI がまだ再現できていないこの「ニュアンスのギャップ」を埋める能力にある。

第 5 章 著作権の難問：所有権、フェアユース、および企業の法的責任

本章では、生成 AI と著作権をめぐる、非常に論争的で社会的な注目度も高い問題を取り上げる。米国の政府機関の公式見解と、現在進行中の法廷闘争に焦点を当てる。

5.1 米国著作権局の見解：人間による創造性の不可欠性

本項では、2025 年のレポートおよび登録ガイダンスに基づき、米国著作権局の立場を明確に分析する ⁶。

その中心的な結論は、機械によって表現要素が決定される作品は、著作権で保護されないというものである ¹³。著作権保護は、作品に対する人間が創作した貢献部分にのみ及ぶ ⁶。

単にプロンプトを提供しただけでは、AI の出力に対する著作権性を主張するには不十分であることが明確にされている⁶。しかし、人間が創作するより大きな作品の中で AI をツールとして使用したり、AI の出力に重要な創造的修正を加えたりした場合には、著作権で保護される作品となり得る¹⁶。

5.2 トレーニングデータの法廷闘争：画期的な訴訟の分析

本項では、著作権侵害の問題に立ち返り、著作権所有者が AI 開発者を相手取って起こした訴訟をより深く分析する⁵。

中心的な法的争点は、AI モデルをトレーニングするために作品をコピーする行為が著作権侵害にあたるのか、それとも「フェアユース」として許容されるのか、という点である。この文脈におけるフェアユースの 4 つの要素についても概説する⁶。

これらの訴訟がもたらす可能性のある結果として、裁判所が AI トレーニングにおける著作権データの使用に対してライセンス契約やロイヤリティの支払いを義務付ける可能性が議論されている⁸。これが実現すれば、AI 開発の経済的基盤が根本から変わる可能性がある。

5.3 生成物の所有権とリスク：企業の法的責任の評価

本項では、AI を開発する側だけでなく、*利用*する企業が直面するリスクに焦点を当てる。企業が広告キャンペーンで AI 生成画像を使用するなどして、そのコンテンツが著作権を侵害していると判断された場合に、どのような責任を負う可能性があるかを分析する⁴。

著作権侵害の観点からは、侵害物が人間によって作成されたか AI によって作成されたかは無関係であり、法的責任は依然として存在するという点が重要である⁸。これは、企業が AI 生成コンテンツを公に使用する前に、徹底的な検証を行う重い責任を負うことを意味する。

AI のトレーニングデータをめぐる法的な不確実性と責任リスクは、AI ベンダーとその法人顧客との間の商取引関係を根本的に変えつつある。IP 侵害請求に対する法的補償は、契約書の標準条項から、企業の利用に適した AI プラットフォームを決定する上で極めて重要な交渉事項へと変化している。

この背景には、⁸、[5]、[9]で詳述されている訴訟が AI 開発者に莫大な潜在的責任をもたらしていることがある。AI ツールを利用する企業（例えば、AI 画像生成ツールを使用するマーケテ

ィング部門) もまた、生成物が著作権を侵害している場合には責任を問われる可能性がある⁴。合理的な企業の法務部門は、このような無制限のリスクを受け入れることはない。彼らは AI ベンダーに対し、AI ツールの使用が IP 侵害訴訟につながった場合に、訴訟費用と損害賠償を負担することを約束する契約上の補償を要求するだろう。

これにより、新たな競争力学が生まれる。強力な補償条項を自信を持って提供できる AI ベンダー (おそらく、ライセンス供与された、あるいは「クリーンな」トレーニングデータを使用しているため) は、法人向け市場で大きな優位性を持つことになる。それができないベンダーは、ユーザーがリスクを受け入れる傾向にある消費者向け市場に追いやられるだろう。したがって、トレーニングデータをめぐる訴訟の結果は、企業の調達決定に直接影響を与え、B2B の AI 市場構造を形成することになる。

第 6 章 企業における導入と戦略的 IP 管理

本章では、米国の主要企業が、活用すべき技術として、また保護すべきイノベーションとして、生成 AI にどのように戦略的にアプローチしているかに焦点を当てる。特にリスク軽減策を重視する。

6.1 企業戦略のケーススタディ：テクノロジーリーダーの AI IP へのアプローチ

本項では、AI の開発者であり、かつ主要な利用者でもある米国の主要テクノロジー企業の IP 戦略を分析する。

- **Microsoft** : Microsoft の戦略は、ハードウェア、クラウド、アプリケーションといった技術スタック全体にわたり、膨大な数の AI 関連特許を出願することにある。これにより、防御的なポートフォリオを構築し、交渉やクロスライセンス契約のツールとして活用している⁴⁶。同社のポートフォリオは、AI への長期的かつグローバルな研究開発投資を反映している⁴⁷。
- **IBM** : IBM は、AI 特許出願の長い歴史を持ち、IP Advisor with Watson のような専門的な AI ツールを開発している。これは、企業が自社の IP ポートフォリオを分析・管理するのに支援するために設計されており、社内の AI 能力を外部向けの商用製品へと転換する戦略を示している⁵⁰。
- **Google** : Google の戦略は、その広範なデータとクラウドインフラ (Vertex AI, Gemini) を活用し、エンタープライズレベルの AI ソリューションを提供することにある⁵⁴。その

焦点は、他の企業が Google のセキュアなプラットフォーム上で新たな価値を構築できるよう支援することにある。

6.2 セキュリティの必須要件：機密情報と営業秘密の保護

AI ツールを使用する上で、データセキュリティが最重要課題であることは論を俟たない。従業員が企業の機密データ、営業秘密、あるいは未出願の発明の詳細を、パブリックな生成 AI モデルに入力してしまう「従業員による情報漏洩」のリスクは極めて大きい³。

このような情報開示は、営業秘密としての保護を失わせるだけでなく、将来の特許権取得を危うくする公知行為と見なされる可能性がある³。

このリスクに対応するため、パブリック、プライベート/エンタープライズ、オンプレミスといった異なる導入モデルが検討されている。特に法人顧客は、自社のデータが分離され、パブリックモデルの再トレーニングに使用されないプライベート環境を強く要求している⁷。

パブリック AI モデルに関連する重大なセキュリティリスクは、企業に AI 導入に関する二層の、すなわち二極化した戦略の採用を強いている。これは、機密性の低い、非公開情報に関わらないタスクにはパブリックツールの使用を認めつつ、機密性の高い IP や専有データを含む作業には、セキュアなプライベート AI ソリューションまたはオンプレミス AI ソリューションの使用を義務付けるというものである。

この戦略の背景には、パブリック AI ツールの使用が営業秘密の喪失や、意図しない公知による特許権の失効といった深刻なリスクを伴うという事実がある³。これに対し、プライベート/エンタープライズモデルではプロバイダーが機密保持に同意し、オンプレミスモデルではシステムが完全に企業の IT 環境内に留まる⁷。Google のエンタープライズ向けサービスは、まさにこのセキュリティニーズに応える形で構築されており、顧客データが組織外で共有されたり、ドメイン外のモデルトレーニングに使用されたりしないことを保証している⁵⁵。

結論として、先進的な企業は、単一の画一的な AI ポリシーを持つことはできない。必然的に、二極化した戦略を策定することになる。例えば、公開ブログ記事の草稿作成のようなタスクには標準的な ChatGPT の使用を許可する一方で、研究開発データの分析や特許出願書類の作成といったタスクには、Google Workspace with Gemini のようなプライベートなエンタープライズグレードのプラットフォームの使用を義務付ける、というようにである。この戦略的な区分は、IP リスクがもたらした直接的な帰結である。

6.3 企業 AI ポリシーの策定：責任ある利用のためのフレームワーク

本項では、企業が独自の社内 AI 利用ポリシーを作成するための実用的なフレームワークを提供する。

ポリシーに含めるべき主要な構成要素は以下の通りである。

- パブリック AI ツールとプライベート AI ツールの許容される使用法と禁止される使用法の定義。
 - パブリック AI システムに入力してはならない機密情報の明確なガイドラインの設定。
 - 外部で使用するすべての AI 生成出力に対する、人間による必須のレビューおよび検証プロセスの導入⁸。
 - 新しい USPTO ガイダンスに基づき、特許出願を裏付けるための、AI 支援発明における人間による貢献を文書化するプロトコルの作成。
 - AI の誤用に伴う法的および評判上のリスクに関する従業員教育²⁸。
-

第 7 章 戦略的展望と実用的な提言

本最終章では、レポートの調査結果を統合し、将来を見据えた分析と、企業のリーダーおよび IP 管理者向けの具体的かつ実行可能な一連の提言を提示する。

7.1 将来の軌道：立法および司法の動向予測

今後の法環境がどのように進化していくかを展望する。トレーニングデータの透明性を高めることを目的とした、提案中の「生成 AI 著作権開示法」のような新たな立法案に言及する⁶⁰。

デジタルレプリカやディープフェイクに関連する権利など、AI に特化した新しい IP 権や法的枠組みが出現する可能性についても議論する⁶¹。

法的な基盤は依然として流動的であるため、企業は現在進行中の訴訟や、USPTO および著作権局からの規制に関する最新情報を注意深く監視し続ける必要があることを強調する⁸。

7.2 ハイブリッドアプローチ：人間による専門知識の永続的価値

最も効果的な戦略は、AI の効率性と人間の監督および戦略的判断を組み合わせたハイブリッドなものであるという中心的なテーマを再確認する²⁹。

AI はプロセスを加速させ、データに基づいた洞察を提供する強力なアシスタントと見なすべきであるが、最終的な意思決定、法的解釈、戦略的方向性は、経験豊富な人間の専門家の手に委ねられなければならないと論じる³¹。

7.3 企業 IP 戦略への提言：経営層向けチェックリスト

本最終項では、経営幹部および社内弁護士が自社の生成 AI 導入を導くための、明確、簡潔かつ実行可能なチェックリストを提供する。このチェックリストは、本レポートの主要テーマに沿って構成される。

- **ガバナンスとポリシー**：包括的な企業 AI 利用ポリシーを直ちに策定し、導入する。
- **リスク軽減**：データセキュリティを最優先事項とする。すべての機密業務において、エンタープライズグレードのプライベート AI ソリューションの使用を義務付ける。すべての AI ベンダーについて、そのセキュリティプロトコルと補償条項を精査する。
- **特許戦略**：AI 支援発明における「人間による重要な貢献」を綿密に記録するため、研究開発の文書化プロセスを適応させる。
- **著作権と商標**：潜在的な権利侵害をスクリーニングするため、すべての対外的な AI 生成コンテンツに対して、厳格な人間によるレビュープロセスを導入する。
- **トレーニングと文化**：研究開発からマーケティングに至るまで、すべての従業員に対し、生成 AI の使用に伴う IP リスクと責任について教育する。
- **技術と調達**：汎用モデルに依存するのではなく、IP 業務に特化した専門的な AI ツールに投資する。ベンダーは、機能だけでなく、セキュリティと法的保護に基づいて評価する。

引用文献

1. Generative AI: Navigating intellectual property | Nixon Peabody LLP, 10 月 19, 2025 にアクセス、
<https://www.nixonpeabody.com/insights/articles/2025/09/17/generative-ai-navigating-intellectual-property>
2. Inventorship Guidance for AI -Assisted Inventions - Federal Register, 10 月 19, 2025 にアクセス、
<https://www.federalregister.gov/documents/2024/02/13/2024->

[02623/inventorship-guidance-for-ai-assisted-inventions](#)

3. IP: Trademarks, patents and trade secrets | Entertainment and Media Guide to AI, 10 月 19, 2025 にアクセス、<https://www.reedsmith.com/en/perspectives/ai-in-entertainment-and-media/2024/02/ip-trademarks-patents-and-trade-secrets>
4. Intellectual property in the age of Generative AI - DLA Piper, 10 月 19, 2025 にアクセス、<https://www.dlapiper.com/insights/publications/2024/06/intellectual-property-in-the-age-of-generative-ai>
5. The platform exposing exactly how much copyrighted art is used by AI tools, 10 月 19, 2025 にアクセス、<https://www.theguardian.com/technology/2025/oct/18/the-platform-exposing-exactly-how-much-copyrighted-art-is-used-by-ai-tools>
6. Generative Artificial Intelligence and Copyright Law - Congress.gov, 10 月 19, 2025 にアクセス、<https://www.congress.gov/crs-product/LSB10922>
7. Generative AI | Global law firm | Norton Rose Fulbright, 10 月 19, 2025 にアクセス、<https://www.nortonrosefulbright.com/en/knowledge/publications/acf01ad6/generative-ai>
8. IP in the Age of AI: What Today's Cases Teach Us About the Future of the Legal Landscape, 10 月 19, 2025 にアクセス、https://www.americanbar.org/groups/business_law/resources/business-law-today/2025-february/ip-age-of-ai/
9. Artificial Intelligence and Intellectual Property: A Year In Review | Jenner & Block LLP, 10 月 19, 2025 にアクセス、<https://www.jenner.com/en/news-insights/publications/artificial-intelligence-and-intellectual-property-a-year-in-review>
10. AI and intellectual property rights - Dentons, 10 月 19, 2025 にアクセス、<https://www.dentons.com/ru/insights/articles/2025/january/28/ai-and-intellectual-property-rights>
11. Trade mark issues arising from use of Generative AI, 10 月 19, 2025 にアクセス、<https://www.marks-clerk.com/insights/latest-insights/102k38m-trade-mark-issues-arising-from-use-of-generative-ai/>
12. Rethinking IP in the Age of AI (Part Four): Using AI to Make Your Trademark: Calfee, 10 月 19, 2025 にアクセス、<https://www.calfee.com/blog/rethinking-ip-in-ai-trademark>
13. The interaction between intellectual property laws and AI: Opportunities and challenges, 10 月 19, 2025 にアクセス、<https://www.nortonrosefulbright.com/en/knowledge/publications/c6d47e6f/the-interaction-between-intellectual-property-laws-and-ai-opportunities-and-challenges>
14. A Brief Explanation of the USPTO's Useful New AI-Assisted Invention Guidance, 10 月 19, 2025 にアクセス、<https://www.hunton.com/insights/legal/a-brief-explanation-of-the-usptos-useful-new-ai-assisted-invention-guidance>

15. Inventorship in the age of AI: examining the USPTO Guidance on AI-assisted inventions | Journal of Intellectual Property Law & Practice | Oxford Academic, 10 月 19, 2025 にアクセス、
<https://academic.oup.com/jiplp/article/20/7/495/8089945>
16. NewsNet Issue 1060 | U.S. Copyright Office, 10 月 19, 2025 にアクセス、
<https://www.copyright.gov/newsnet/2025/1060.html>
17. The USPTO's Inventorship Guidance for AI-Assisted Inventions - Rothwell Figg, 10 月 19, 2025 にアクセス、
<https://www.rothwellfigg.com/publication-the-usptos-inventorship-guidance-for-ai-assisted-inventions>
18. USPTO - Inventorship Guidance for AI-Assisted Inventions, 10 月 19, 2025 にアクセス、
<https://www.uspto.gov/sites/default/files/documents/ai-inventorship-memo.pdf>
19. USPTO issues inventorship guidance and examples for AI-assisted inventions, 10 月 19, 2025 にアクセス、
<https://www.uspto.gov/subscription-center/2024/uspto-issues-inventorship-guidance-and-examples-ai-assisted-inventions>
20. USPTO Provides Guidance on Using AI-Based Tools in Filing and Preparing Patent and Trademark Applications | Insights | Skadden, Arps, Slate, Meagher & Flom LLP, 10 月 19, 2025 にアクセス、
<https://www.skadden.com/insights/publications/2024/05/uspto-provides-guidance-on-using-ai-based-tools>
21. USPTO Sets Forth Criteria for AI-Assisted Inventorship – Publications - Morgan Lewis, 10 月 19, 2025 にアクセス、
<https://www.morganlewis.com/pubs/2024/02/uspto-sets-forth-criteria-for-ai-assisted-inventorship>
22. Inventorship guidance for AI-assisted inventions webinar - USPTO, 10 月 19, 2025 にアクセス、
<https://www.uspto.gov/about-us/events/inventorship-guidance-ai-assisted-inventions-webinar>
23. Use of AI Does Not Preclude Patentability, USPTO Guidance Affirms | Intelligence, 10 月 19, 2025 にアクセス、
<https://www.shb.com/intelligence/client-alerts/ip-alerts/vogel-uspto-guidance-ai>
24. Inventorship guidance for AI-assisted inventions | USPTO, 10 月 19, 2025 にアクセス、
<https://www.uspto.gov/sites/default/files/documents/inventorship-guidance-for-ai-assisted-inventions.pdf>
25. USPTO Guidance on Inventorship for AI-Assisted Inventions - Sullivan & Cromwell LLP, 10 月 19, 2025 にアクセス、
<https://www.sullcrom.com/SullivanCromwell/Assets/PDFs/Memos/USPTO-Guidance-Inventorship-AI-Assisted-Inventions.pdf>
26. US Patent Office (USPTO) Inventorship Guidance for AI-Assisted Inventions - BitLaw, 10 月 19, 2025 にアクセス、
<https://www.bitlaw.com/source/pto/AI-Inventorship-Guidance.html>
27. USPTO Issues Guidance on AI Use to Patent Professionals — AI: The Washington

- Report, 10 月 19, 2025 にアクセス、<https://www.mintz.com/insights-center/viewpoints/54731/2024-04-18-uspto-issues-guidance-ai-use-patent-professionals-ai>
28. Justice Meets Algorithms: The Rise of Gen AI in Law Firms - New York State Bar Association, 10 月 19, 2025 にアクセス、<https://nysba.org/justice-meets-algorithms-the-rise-of-gen-ai-in-law-firms/>
 29. The Practical Risks and Benefits of Using Generative AI for Patent Drafting, 10 月 19, 2025 にアクセス、<https://hselaw.com/news-and-information/in-the-news/the-practical-risks-and-benefits-of-using-generative-ai-for-patent-drafting/>
 30. Generative AI & Intellectual Property Use Cases - Solve Intelligence, 10 月 19, 2025 にアクセス、<https://www.solveintelligence.com/blog/post/generative-ai-and-intellectual-property>
 31. How to Draft Patents with AI: A Step-by-Step Guide - Patlytics, 10 月 19, 2025 にアクセス、<https://www.patlytics.ai/blog/how-to-draft-patents-with-ai>
 32. AI Aids for Patent Prosecution - Product Review - AIPLA, 10 月 19, 2025 にアクセス、<https://www.aipla.org/list/innovate-articles/ai-aids-for-patent-prosecution--product-review>
 33. AI for IP Law: Streamlining Patent and Trademark Processes - Spellbook, 10 月 19, 2025 にアクセス、<https://www.spellbook.legal/learn/ai-for-ip-law>
 34. DeepIP - Better & Faster Patents with Gen AI, 10 月 19, 2025 にアクセス、<https://www.deepip.ai/>
 35. Best 6 AI Patent Drafting Tools in 2025 - Solve Intelligence, 10 月 19, 2025 にアクセス、<https://www.solveintelligence.com/blog/post/best-ai-patent-drafting-tools>
 36. Edge, 10 月 19, 2025 にアクセス、<https://www.withedge.com/>
 37. In-House Automated Patent Drafting Tool - Polsinelli, 10 月 19, 2025 にアクセス、<https://www.polsinelli.com/in-house-automated-patent-drafting-tool>
 38. Patent Attorneys, AI, and the Skills Gap: Insights from AIPLA - Solve Intelligence, 10 月 19, 2025 にアクセス、<https://www.solveintelligence.com/blog/post/patent-attorneys-ai-and-the-skills-gap-insights-from-aipla>
 39. The Double-Edged Sword of AI in Patent Drafting and Prosecution | AILaw and Policy, 10 月 19, 2025 にアクセス、<https://www.ailawandpolicy.com/2024/10/the-double-edged-sword-of-ai-in-patent-drafting-and-prosecution/>
 40. Generative AI Legal Use Cases & Examples - Research AI Multiple, 10 月 19, 2025 にアクセス、<https://research.aimultiple.com/generative-ai-legal/>
 41. What to Consider When Using AI in Trademark Practice - Heilbut LLP, 10 月 19, 2025 にアクセス、<https://heilbutllp.com/2025/01/what-to-consider-when-using-ai-in-trademark-practice/>
 42. TrademarkNow - AI-Powered Trademark Platform - Start Trial, 10 月 19, 2025 に

- アクセス、 <https://corsearch.com/trademarknow/>
43. Trademarkia AI- America's #1 Intellectual Property service with a ..., 10 月 19, 2025 にアクセス、 <https://www.trademarkia.ai/>
 44. Huskiai: Trademark Search & Watch | Brand Protection | Huskiai, 10 月 19, 2025 にアクセス、 <https://huski.ai/>
 45. AI Tools and Services - WIPO, 10 月 19, 2025 にアクセス、 <https://www.wipo.int/en/web/ai-tools-services>
 46. Latest Microsoft Patents: In-Depth Examples and Analysis - PatentPC, 10 月 19, 2025 にアクセス、 <https://patentpc.com/blog/latest-microsoft-patents-in-depth-examples-and-analysis>
 47. Microsoft Patents | Microsoft Legal, 10 月 19, 2025 にアクセス、 <https://www.microsoft.com/en-us/legal/intellectualproperty/patents>
 48. AIPatent Showdown: Google vs. Microsoft vs. Amazon – Who Holds the Most? | PatentPC, 10 月 19, 2025 にアクセス、 <https://patentpc.com/blog/ai-patent-showdown-google-vs-microsoft-vs-amazon-who-holds-the-most>
 49. Check Out Patent Portfolio For Microsoft: Key insights - TT Consultants, 10 月 19, 2025 にアクセス、 <https://ttconsultants.com/articles/what-did-the-patent-landscape-of-microsoft-look-like/>
 50. IBM IP Advisor with Watson White Paper | PDF - Slideshare, 10 月 19, 2025 にアクセス、 <https://www.slideshare.net/slideshow/ibm-ip-advisor-with-watson-white-paper/241295246>
 51. Disrupting the patent ecosystem with blockchain and AI- IBM, 10 月 19, 2025 にアクセス、 <https://www.ibm.com/think/insights/disrupting-the-patent-ecosystem-with-blockchain-and-ai>
 52. How IBM's AIPatents Are Shaping the Future of Machine Learning - PatentPC, 10 月 19, 2025 にアクセス、 <https://patentpc.com/blog/how-ibms-ai-patents-are-shaping-the-future-of-machine-learning>
 53. History of AI at IBM and How IBM is Leveraging Watson for Intellectual Property - ecc, 10 月 19, 2025 にアクセス、 <https://ecc.marist.edu/documents/1458002/1650817/Slides+Tom+Fleischman+History+of+AI++and+How+IBM+is+Leveraging+Watson+for+Intellectual+Property+ECC.pdf/936abefb-4c3d-4f04-978f-51ddd25fc17c>
 54. Top Generative AI Companies 2025 | Complete Guide - Phaedra Solutions, 10 月 19, 2025 にアクセス、 <https://www.phaedrasolutions.com/blog/top-generative-ai-companies>
 55. Generative AI in Google Workspace Privacy Hub, 10 月 19, 2025 にアクセス、 <https://support.google.com/a/answer/15706919?hl=en>
 56. Generative AI | Google Cloud, 10 月 19, 2025 にアクセス、 <https://cloud.google.com/ai/generative-ai>
 57. AI Tools for Business | Google Workspace, 10 月 19, 2025 にアクセス、 <https://workspace.google.com/solutions/ai/>
 58. Generative AI: How Is It Changing the Role of the Patent Attorney? - UB, 10 月 19,

2025 にアクセス、

https://www.ub.edu/centredepatents/pdf/doc_dilluns_CP/Timothy%20Powell%20-%20How%20Generative%20AI%20is%20Changing%20the%20Role%20of%20Patent%20Attorney%20-%20LP2025-09-29.pdf

59. Use Private Service Connect to access Generative AI on Vertex AI from on-premises | Google Cloud, 10 月 19, 2025 にアクセス、
<https://cloud.google.com/vertex-ai/docs/general/vertex-psc-gen-ai>
60. www.nixonpeabody.com, 10 月 19, 2025 にアクセス、
<https://www.nixonpeabody.com/insights/articles/2025/09/17/generative-ai-navigating-intellectual-property#:~:text=In%20the%20US%2C%20Congress%20has,give%20copyright%20owners%20more%20control>
61. Intellectual Property in the Age of Generative AI: Risks & Best Practices - Trestle Law, APC, 10 月 19, 2025 にアクセス、
<https://www.trestlelaw.com/blog/intellectual-property-in-the-age-of-generative-ai>
62. Artificial Intelligence and Intellectual Property - WIPO, 10 月 19, 2025 にアクセス、
<https://www.wipo.int/en/web/frontier-technologies/artificial-intelligence/index>